



## 「抄録作成のポイント」

第 51 回埼玉県医学検査学会  
学術部 稲葉 拓郎

第 51 回埼玉県医学検査学会の学術部を務めます、株式会社アムルの稲葉拓郎と申します。皆様ご存じのことかも知れませんが、5 月 1 日(月)から演題・抄録の受付が始まりました。そこで今回は簡単ではありますが、抄録作成のポイントについてお伝えしたいと思います。

抄録を書くときに「どう書けばいいのだろう」と思うことがありますよね。そんな時は過去の抄録を参考にしてみましょう。職場の先輩上司の抄録や他にも良いものがあれば、書き方や表現方法を参考にしてみてください。抄録は「背景・目的」、「方法」、「結果」、「考察・結語」の 4 つに分けて構成されています。

「背景・目的」：背景を踏まえ、自分が何を明らかにしたいか簡潔にまとめましょう。

「方法」：対象や検討方法、データの抽出方法、評価方法について記載しましょう。

「結果」：方法に則り、得られた事実や数値のみを記載しましょう。

「考察・結語」：考察は結果から導き出した飛躍のない自分の考えと、今後の展望を記載し、結語で明らかとなった知見を簡潔にまとめましょう。

自身で抄録を作成したら、先輩上司に何度かチェックしてもらいましょう。誤字脱字はもちろんのこと、さらに的確な表現を提案してくれるはずですよ。抄録は日本臨床衛生検査技師会総合情報システム(JAMTIS)を用いたテキスト入力方式、ファイルアップロード方式のいずれかにて作成可能です。ファイルアップロード方式で用いる Microsoft Word ファイルは、学会ホームページでもダウンロードできます。文字数設定済で、アップロードも簡単なのでお勧めです。詳しくは学会ホームページをご覧ください。それでは、多数の演題の申し込みをお待ちしております。